

「中東北」の拠点都市一関の形成を目指した地域の基盤づくり

計画の目標

- ・岩手県南と宮城県北や沿岸との中心に位置する地理を生かし、圏域の観光産業や産業経済活動を支える基盤づくりを行う。
- ・地域の教育、医療の機能を支え連携と交流を促進するための基盤づくりを行うとともに、計画的に適切な維持管理を行う。
- ・市民が快適に暮らせる環境をつくるため、安全で安心な道路環境の整備を行う。

事業内容

- ・道路改良（バイパス、現道拡幅）事業、舗装新設事業、交通安全（歩道整備）事業、舗装修繕事業

計画期間

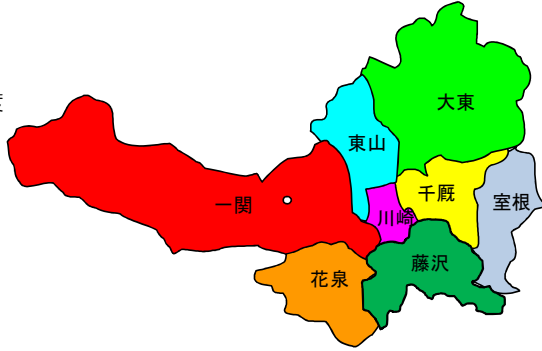
- ・平成22年度～26年度

事業区域

- ・一関市全域

全体事業費

- ・10,357百万円



全体事業費

- ・263路線に対し、道路改良（バイパス、現道拡幅）事業、舗装新設事業、交通安全（歩道整備）事業、舗装修繕事業を実施した。

事業例

- ・主要幹線道路へのアクセス時間短縮を目標に実施した道路整備事業（市道清水原一関線）



出典：地理院地図電子国土Web (<http://maps.gsi.go.jp>)
標準地図データ（国土地理院）
(<http://maps.gsi.go.jp>) をもとに一関市建設部道路建設課作成

- ・幹線市道整備にあわせ沿線の市道を接続し、国道へのアクセス性が飛躍的に向上した。

- ・通学路整備を目標にした交通安全（歩道整備）事業（市道赤荻黒沢線）



- ・新たに歩行空間を確保し、通勤通学の安全性を向上させた。

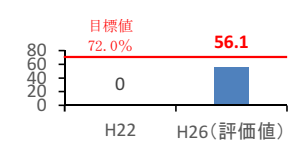
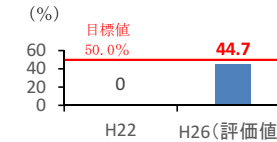
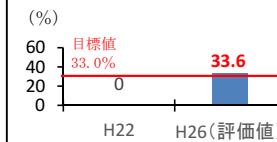
成果目標

1. 主要幹線道路までのアクセス時間短縮率	2. 補修等の対策が必要な箇所の整備率	3. 通学路の歩道整備率
$100 - (\sum \text{整備後走行時間} / \sum \text{現状走行時間}) \times 100 (\%)$	対策済箇所数 / 要対策箇所数 $\times 100 (\%)$	歩道整備済延長 / 通学路延長 $\times 100 (\%)$
H22 0% → H26 (目標) 33%	H22 0% → H26 (目標) 50%	H22 0% → H26 (目標) 72%
※計画登録路線内での短縮率		※計画登録路線内での整備率

成果目標の達成状況

- ・計画的に事業を実施したが、一部事業において用地取得協議に時間を要したほか、十分な予算の確保ができず、予定していた事業進捗に遅れが生じ、達成できない指標があった。

1. 主要幹線道路までのアクセス時間短縮率 33.6%	2. 補修等の対策が必要な箇所の整備率 44.7%	3. 通学路の歩道整備率 56.1%
※計画登録路線内での短縮率		※計画登録路線内での整備率



今後の方針

- ・今計画期間で完了とならなかった事業（路線）については、次期計画にも位置付け引き続き整備を進め、早期の事業効果発現に努める
- ・国道道を補完する主要な市道整備について、次期計画でも新たな路線を位置付け、市内交通ネットワークの充実を図る。